

No.102

# 会 報

2003 (平成 15)年 2月 15日 Shizuoka Consulting Engineers Association 静岡県技術士協会  
事務局 〒 416-0952 (株)建設コンサルタントセンター内 (TEL 0545-64-6665 FAX 0545-64-3690)

会 長：守屋 文二 専務理事：吉澤 淳  
編集担当者：森 稔夫 山之上 誠 高尾和宏

振込口座：静岡銀行 清水中央支店 普通 0718595 静岡県技術士協会 会計 藤田協右 (0543-64-1148)

— 2003 (平成 15) 年を迎えて —

静岡県技術士協会会長 守屋 文二

ごあいさつ



これらは各自で日ごろ習得に努力されていることとは思いますが、協会としてもこれまでの活動に加えて日常の技術研鑽や新技術の紹介など、新しい時代にふさわしい活動を積極的に取り入れて、皆様方のお役に立つよう努めてまいり所存です。

今年も皆様方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

明けましておめでとうございます。

皆様には希望にみちた新年をお迎えになりましたことと、心よりお喜び申し上げます。

当協会は創立以来、会員相互の交流を通して技術啓発活動を進めてきました。

二十一世紀に入り、技術士としての果たすべき役割もより一層、重要性が高まり、技術士法も改正されて継続教育の義務化や技術者倫理の明確化などを規定するにいたりました。



## 「私の CPD」

### 遅くなったご挨拶に代えて

専務理事・吉澤 淳

2 冊目のファイルがフィルアップに近い。スタートは昨年末である。確かに、CPD の形態には実に様々なものがある。日本技術士会曰く「技術者倫理の徹底」、「科学技術の進歩への関与」、「社会環境変化への対応」、「技術者としての判断力の向上」とこの目的を謳い掲げている。技術士を名乗る以上当り前のことであるが、大変な努力を要することである。

若干の具体例をファイルから取り出し、皆さんの参考に供させて戴くと同時に、何より自己評価の呪縛から少しは逃れられる筈との思いもある。

#### 1. しずおか産業創造機構

- 1) 経営技術診断助言委員会委員
- 2) 中小企業研究開発助成事業技術評価委員会

25 企業についてプレゼン、Q & A で採否のための採点を行う。テーマは多岐にわたり、委員には巾広い知識・経験が求められる。全テ



マに Q & A を行い、幾つかのテーマについてはアドバイスが出来た。

#### 2. 県商工労働部新産業課

##### 中創法認定企業実態調査事業

50 社を選定し技術開発、生産の現状調査と技術的問題へのアドバイスを行う。当会の事業として進行中、私も 4 社担当する。

#### 3. 静岡創開懇和会

異業種交流会である。故岡部名誉会員の創設で月 1 回のペースで長い歴史が続いている。最近では「柔軟性竹炭シートおよびその製法」技術を開発し商品化した。

#### 4. 藤枝市環境保全協議会

2 月 4 日 研修事業部例会で静岡空港建設現場、スズキ（株）相良工場を見学する。

#### 5. インターネブコン 2003 視察

プリント配線板、半導体パッケージング関連でピーアイ技研、マイクロハード社、宇部興産社、日立化成社、三井化学社など 10 社余と討論、商談を行う。

#### 6. QC

急成長したハイテク商品への品質保証要求は厳しい。受託加工先および外注先での品質保証体制、個別商品品質標準の確立を指導。

1 月 30 日クライアントの監査あり合格する。

当会でも 2 月 7 日の例会で浜松ホトニクス（株）豊岡製作所を見学した。真空管制作に溶液型ガラスコーティング方式が応用できるのではと考えた。先方へも提案してみた。

豊富な知識・経験のストックを絶えず最新版へ更新していくことが、課せられた CPD のポイントであると思う。

## [ 2002 年度・第 2 回例会開催 ]



### 例会概要

1. 日 時 : 平成 15 年 2 月 7 日  
14 : 30 ~ 16 : 00

2. 場 所 : 浜松ホトニクス株式会社  
豊岡製作所  
( 磐田郡豊岡村下神増 )  
概要説明 : 2F 会議室

3. 内 容 : 小柴昌俊東大名誉教授のノーベル賞受賞に大役を果たしたとされる「カミオカンデ」を製作した豊岡製作所で実験室等の見学を行い、「カミオカンデ」等の光学機器について

の解説を拝聴した。

4. 出席者 : 29 名

5. 継続教育 ( CPD ) 参加証明書  
出席者に参加証明書を交付した。

( P4 参照 )

6. 付記 今回の企画、実施に際し、神立信副会長に大変お世話になりました。厚く謝意を表する次第である。

( 編集子 )

### 会員の現地見学の感想

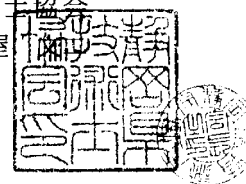
林業部門 高尾 和宏  
私には「光学の知識」ま全く無い。しかし、かつて、距離の測定は「間縄」という紐で 2 点間を測定していたのであるが、遠方、傾斜地等、過去では苦勞しながら測定した箇所も現在では、「光学測定機」で瞬時に、かつ正確に測定できる様になってきている。

「光学機器」の今後広い分野で活用されるであろうことを、研究室、成果品を具に拝見して感じられた。

また、「カミオカンデ」は企業の利益を度外視した協力により完成したとのことに、「技術者魂」を強く感じた。

## 技術士継続教育（CPD）参加証明書（写）

平成 14 年 2 月 7 日  
 様 (社) 日本技術士会 中部支部  
 静岡県技術士協会  
 会長 守屋



### 技術士継続教育（CPD）参加証明書

あなたは、下記の（社）日本技術士会中部支部静岡県技術士協会主催の 2002 年度第 4 回例会に参加し、1 時間 30 分の技術士継続教育を行ったことを証明致します。

#### 記

1. 日 時：平成 15 年 2 月 7 日（金）14：30 より 16：00
2. 場 所：浜松ホトニクス(株)豊岡製作所
3. 見学スケジュール：
  - 14 時 30 分～ 14 時 45 分 挨拶
  - 14 時 45 分～ 15 時 00 分 会社紹介ビデオ
  - 15 時 00 分～ 15 時 45 分 工場見学（光電子増倍管製造工程）製品展示室
  - 15 時 45 分～ 16 時 00 分 質疑応答
4. 出席者：別紙

### 2002 年度第 4 回例会出席者名簿

No.	部 門	氏 名
1	建 設	相 澤 林 作
2	建 設	芦 沢 五 一
3	建 設	伊 藤 和 美
4	水 道	磐 本 正 夫
5	衛 生 工 学	大 森 政 義
6	機 械	加 藤 幸 男
7	林 業	金 澤 啓 悟
8	建 設	金 牧 俊 夫
9	経 営 工 学	川 瀬 順 治
10	機 械	神 立 信
11	水 道	絹 村 薫
12	織 維	小 杉 思 主 世
13	電 気 ・ 電 子	五 味 道 隆
14	水 道	斉 藤 恭 興

No.	部 門	氏 名
15	建 設	櫻 賢 三
16	林 業	高 尾 和 宏
17	船 舶	平 山 健 治
18	建 設	藤 田 協 右
19	建 設	藤 原 正 臣
20	建 設	牧 内 弘 明
21	機 械	松 尾 博 孝
22	経 営 工 学	松 影 泰 三
23	建 設	松 本 亨
24	経 営 工 学	守 屋 文 二
25	情 報 工 学	山 下 久 吉
26	建 設	山 之 上 誠
27	建 設	山 本 正 男
28	化 学	吉 澤 淳
29	経 営 工 学	吉 澤 富 士 男

〔CPDの特集〕

● CPD の課題とその区分

区分	課 題 項 目	内 容
A 一 般 共 通 課 題	1.倫 理	倫理規定、技術倫理（技術の人類社会に与える長期的・短期的影響の評価を含む技術士に課せられた公益確保の責務等） 地球環境、環境アセスメント、環境課題の解決方法等安全
	2.環 境	基準、防災基準、危機管理、化学物質の毒性、製造物責任法（PL法）等
	3.安 全	新技術、品質保証、情報技術、規格・仕様等
	4.技 術 動 向	国内、海外動向（国際貿易動向、GATT / WTO、ODA 等）
	5.社 会 動 向	商務協定並びに技術に対するニーズ動向等
	6.産 業 経 済 動 向	内外の産業経済動向、労働市場動向等
	7.規 格 ・ 基 準 の 動 向	ISO、IEC 等
	8.マ ネ ジ メ ン ト 手 法	工程管理、コスト管理、資源管理、維持管理、品質管理、リスク管理等
	9.契 約	役務契約、国際的な契約形態等
	10.国 際 交 流	外国語によるプレゼンテーション・コミュニケーション
	11.そ の 他	国際社会の理解、各国の文化及び歴史、教養（科学技術史など）、一般社会との関わり等
B 技 術 課 題	1.専門分野の最新技術	専門とする技術、周辺技術等
	2.科 学 技 術 動 向	専門分野、科学技術政策、海外の科学技術動向等
	3.関 係 法 令	業務に関連ある法令（特に改定時点）
	4.事 故 事 例	同様な事故を再び繰り返さないための事例研究ならびに事故解析等
	5.そ の 他	

◎ CPD の形態と時間重み係数（CPDWF）

形態区分	内容	CPD 時間算定及び時間重み係数の目安
1. 講習会、研修会、講演会、シンポジウム等への参加（受講）	日本技術士会、関係学協会（学術団体、公益法人を含む）大学等、民間団体及び企業が公式に開催するもの	時間重み係数 CPDWF = 1
2. 論文等の発表	(1) 学協会、民間団体、企業等が開催する技術発表会、講演会、研究会、シンポジウム等での口頭発表 (2) 学協会、民間団体、企業等が発行する学術誌、技術誌等への論文、報告文の発表	CPD 時間 = 最大 40 時間（学術雑誌への査読付き論文、1 件当たり） CPD 時間 = 最大 10 時間（一般論文、総説等） 便宜的に論文等を 1 ページ当たり 5 時間程度での換算も可 口頭発表は CPDWF = 3 ~ 2
3. 企業内研修	研修プログラムが明示されており、それに基づいて実施され成果が明確なもの	研修：CPDWF = 1（研修プログラムによる実施） OJP：最大 20 時間（OJP プログラムによる実施）
4. 技術指導	(1) 大学、学協会、民間団体、企業等の開催する研修会、講習会の講師等 (2) 修習技術者等にする具体的な技術指導	CPDWF = 3 ~ 2 大学、学術団体等の研修等の講師や修習技術者等に対する具体的な技術指導は 3 社内研修会等の講師は 2
5. 産業界における業務経験	業務上で特に技術的成果をあげた業務、学協会・民間団体企業等の表彰を受けた業務、特許出願した業務など	CPD 時間 = 最大 40 時間（特許出願 1 件当たり） CPD 時間 = 最大 20 時間（特に、受賞等成果を上げた業務等）



5. その他		
. 公的な技術資格の取得	政府機関等の認定あるいは承認する公的な技術資格の取得	CPD 時間 = 最大 20 時間 (1 資格当たり)
. 公的な機関での議長や委員長就任の場合	政府機関等の審議会・研究会等の委員、学協会等の役員、委員への就任 (年間を通した活動であるもの)	CPD 時間 = 最大 40 時間 (議長や委員長就任の場合 : 1 委員会当たり) CPD 時間 = 最大 20 時間 (委員会委員の場合 : 1 委員会当たり)
. 大学、研究機関における研究開発・技術開発業務への参加、国際機関への協力等	大学、研究機関 (企業を含む) 等における研究開発・技術開発業務への参加、国際機関、国際協力事業団等における国際的な技術協力への参加	時間重み係数などは、上記に照らして適宜判断
. 技術図書の執筆、自己学習	成果が明確なもの	
. その他	上記以外で技術士の CPD に値すると判断されるもの	

## 短 信

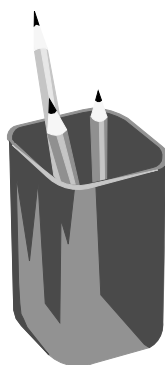
- 会員の情報交換ページ  
昨年末より当会ホームページへ開設しました。早速、稲葉さん、牧田さんが技術士試験でボール投げを始めています。皆さんご活用下さい。
- 創造法認定企業実態調査事業  
調査がスタートしました。西部 30 社・中部 10 社・東部 10 社をそれぞれ神立さん、森さん、木村さん担当で派遣する方々を決めて戴きました。この道一筋の企業主との話は教えられることばかり多いように思います。(私の場合)
- 指導技術士  
本試験にチャレンジする技術士補が増えてくると思えます。仲間を増やすためにもバックアップしていきましょう。  
湖西市の大橋さん (機械) は神立さんに引き受けて戴きました。中部でも希望者 (化学) がおります。

(吉澤 淳)



## 連絡事項

1. 「2003年度総会」は4月18日(金)です。  
場所は昨年同様クーポール会館です。多数の会員諸氏の出席を期待しています。  
なお、総会に先立つ理事役員会は4月5日(土)を予定しています。
2. 当協会の「HP」を御覧下さい。  
[http://www.d3.dion.ne.jp/~shiz\\_ea](http://www.d3.dion.ne.jp/~shiz_ea) 情報を可能な限り掲載していきます
3. その他  
会員の中で住所等、変更のある方は、  
専務理事・吉澤 淳宛 お知らせ下さい。  
(FAX 054 - 247 - 3123)  
会の運営、会報へのご意見、  
投稿等をお待ちしております。



## 会費の納入のお願い

2002年度から会計担当常任理事が変更しました。

「会費の納入」は下記へお願い申し上げます。  
年会費 8,000 円です。名誉会員の方々には4,000 円のご協力をお願いしています。

◆振込口座：静岡銀行 清水中央支店  
普通 0718595

◆静岡県技術士協会

常任理事(会計担当) 藤田協右  
(0543 - 64 - 1148)

## - 編集後記 -

現地研修は先端技術を見学し、貴重な体験を拝聴できました。また、制限人数一杯の会員の参加に感謝しています。

今号は会員諸氏の「CPD」の参考に供するために「重み」等について記載しました。

(文責：編集子)

## 静岡県技術士協会内部連絡先のご案内

2002年、2003年度の役員は中部が担当することになりました。

事務局は(株)建設コンサルタントセンター様のご厚意により、従来通り同社内とさせていただくことになりました。

協会内部の連絡は下記の役員(会長、副会長、専務、常任理事)にして下さるようお願い致します。

役名氏名	連絡先	電話	F A X	E - M a i l
会長 守屋文二	守屋技術士事務所	054-281-4078	054-281-4078	
副会長 木村芳正	(株)建設コンサルタントセンター	0545-64-6665	0545-64-3690	yo-kimura@kencon.jp
副会長 神立信	神立技術士事務所	053-436-3496	053-438-8170	kandatsu@pop16.odn.ne.jp
専務理事 吉澤淳	東洋コーティング(株)	054-246-6804	054-247-3123	atsu-yosizawa@toyocoating.co.jp
常任理事 藤田協右	清水建設(株)	0543-64-1148	0543-64-1148	
常任理事 森稔夫	森技術士事務所	0547-37-2389	0547-37-2389	
常任理事 山之上誠	住友建設(株)	054-246-6881	054-246-6881	yamanoue@ka.tnc.ne.jp
常任理事 高尾和宏	(株)技研測量	054-237-5871	054-238-7531	